

# 情操教育で宗の担い手育成 創立式典で躍進誓う

## 浄土宗児教連

浄土宗児童教化連盟は6日、創立50周年記念式典を知恩院和順会館で開いた。(写真)

三宅明信理事長は、「会員数は20年前の3倍になったが、活動は縮小傾向にある」と警鐘を鳴らし、児教連の活動が檀信徒制度に頼らない環境づくりにつながる活動であることを伝えた。

来賓の豊岡鐮尔宗務総長は「児教連は浄土宗にとって大切な組織。少子高齢化や葬儀の簡略化など、宗を危機的な状況に追い込む波が寄せている。児教連の活動が宗の将来を支える」と語った。大崎順敬総本山知恩院総務部長は「学生の頃に参加したのが



浄土宗児童教化連盟 創立50周年

児教連との初めての関わりで、司馬遼太郎氏の話が印象に残っている」と述べ、法然上人の御心に通じるとして、司馬氏が残した言葉「21世紀に生きる君たちへ」を読み上げた。中村瑞貴東北教化センター長は「少子化といわれるが、小さな念仏者を育てるため、めげずにがんばりたい」と話した。

式典後は祝宴が開かれ、法然上人800年大遠忌の記念映画「そして、これから」に出演した雷門福三氏の落語講演や、浄土宗の劇団ひとりとして活動する山添真寛氏（浄観寺・滋賀教区）による人形劇などが披露された。